第２回（仮称）ひたち若者かがやきプラン策定委員会　議事要旨

日　時　令和２年 11 月 18 日（水）　　午前 10 時から正午まで
場　所　日立シビックセンター　集会室
出席者　委員１２名（欠席：志摩委員、中村委員、湯浅委員）
＜会議概要＞
１　開会
２　委員長挨拶

○　ここ数日、里親研修会や発達の凸凹のある思春期の子の会などに出ていました。そのような日々の中で、自分は教育や福祉、発達支援などの分野については多少分かっているものの、ビジネスのことやメディアのことなど、他の分野のことはわかっていないことが多いことに気づいた。

○　会議では、自分にとって当たり前のことでも他の人には当たり前ではなく、他の人にとって当たり前のことでも自分にとっては当たり前ではないという前提で、それぞれが持っている知恵を出し合い、その知恵をもとにプランが出来上がるということが大事だと思う。

○　本日はワークショップが会議の中心になるが、皆様の思いの丈をどんどん発言してほしい。

３　議題
(1)　第１回策定委員会の振り返り

事務局から主な意見について、口頭で報告を行った。

○　若者とは、18 歳から 39 歳までと幅があり、ライフステージによって考え方や求めるものが違っているため、どのようにまとめていくのかを考えていかなくてはならない。

○　幼いころの教育が影響するので、子どもから大人までつながる計画が必要なのではないか。

○　策定委員のメンバーのような若い方々が教育に入り込み、子どもたちに日立市で生きていくということについて教えることができれば、なんらかの影響を及ぼせるのではないか。

○　母親が社会とのつながりを持つことは、子どもにとって非常に良い影響を与えられるため、いろいろなコミュニティと関わることが大事である。

○　賑わいとはどういうことなのか、若者が来て、若者で賑うことが本当に良いことなのかも考えていかなければならない。

○　全てを大切にするプランだと魅力的ではなくなり、他自治体と同じになってしまう。

○　どういう場所にいても成長できる仕組みが大事だと思う。

○　日立から出た人が多くても、日立を知っている人が色々な地域に散らばっている状

態になるため、出ていった人が日立のために何かできるような仕組みがあればいい。

○　若者が集まる仕組みとして、企業と一緒に若者が成長できる場所を作れればいい。

○　どのように日立市に目を向けさせる機会を与えるかということも大事である。

(2)　首都圏意識調査調査報告

事務局から資料に基づき、報告を行った。

○　委員長

調査結果について、現時点でのまとめを報告してもらったが、次回会議には内容の精査部分も含めて報告するということでよろしいか。

○　事務局

その通りである。

○　委員長

次回かその次の回には、日立市内の意識調査の結果が出るかと思うので、楽しみに待ちたい。

(3)　ワークショップ

３つのテーマについて、ワークショップを行った。

ＡとＢの２つのグループにわかれ議論を行い、検討結果を各グループから発表する。

最後に、委員長・副委員長から講評を得た。

ア　テーマ１「20 年後、私たちはこうありたい」

イ　テーマ２「自分が暮らしていくために日立市はどうあって欲しい」

ウ　テーマ３「若者が集まって生まれる賑わいとは」

【Ａグループ】の意見

○　20 年後の部分であれば働き方の分野がたくさん出た。出たことを深堀りし、議論設計した。「20 年後」「暮らしていくため」「賑わい」、最後に全体の感想を発表する。

[20 年後]

○　大きく３つ、「仕事」、「ネットワーク」、「教育・子育て」で多くの意見が出た。「仕事」の分野では、コロナ渦でリモートワークが流行っているにも関わらず、市内ならどこでも働ける環境づくりなど、環境整備が進んでいない。サテライトオフィスの取り入れや、通勤時間を減らして仕事や自分の時間に使えるような仕組み作りが大事ではないか。

○　住む場所と働く場所が異なる時代に、住む場所と働く場所が混在して議論されている。働く場所として選ばれるまちとして、日立市らしさを深堀りしていきたい。

○　また、仕事で得意分野を活かす選択肢として、規模感や仕事のスタイルなど様々あるが、住民それぞれが得意分野を活かし、社会と接点を持てるような社会づくりができればいいのではないか。

○　ネットワークでは、「世代を越える」というキーワードが出た。年上の人と交流する

機会が少なく、年上の人も若者と繋がりを持ちたいが方法がわからない、敬遠されている感じがするなど、垣根を越えるにはどうするのかという議論があった。例えば年齢差があるシェアハウスなど、面白い発想があってもいいのではないか。

○　20年後の教育・子育てに関して、学校に行けなくなった子の、学校以外の選択肢が少ない。選択肢としてのコミュニティをわかりやすくしてほしい。

○　また、行政に相談した際、分かりやすく具体的な話で伝えてもらいたい。相談した時に分かりません、ありません、で終わるのではなく別の相談先を示してほしい。

[暮らしていくために]

○　都市の在り方や行政の関りについて説明する。都市のあり方の要点を「時代は変われど、変わらない日立」とし、IT面などは時代に沿って変わっていくが、自然環境や祭り、歴史などはそのまま変わらず、地域性を保つ日立、を都市のあり方として求めたい。

○　所属する企業は東京だが、住む場所は日立を選択するようになるのではないか。

○　職を求める子育て中の女性や学生が、オンライン・オフラインに関わらず、知りたい情報にアクセスできていないと感じた。発信力と、情報へのアクセスをより良くできれば、行政はさらに関わりが持てるのではないか。

○　日立市内にどのような企業があるのか知らない学生もいるため、県内、市内の企業をリストアップし、ピックアップした企業を学生に１日かけて回ってもらうなど、企業を知ることが出来る周遊イベントがあればいいのではないか。

○　横の関係を持つことができず、縦割りの環境が固まっている。行政には縦割りの現状を打破してもらい、その部分に関わってほしい。

○　稼げるまちになれればいいと考えている。商業的な部分でチャレンジできるような、実際にビジネスコンテストの賞などはあるが、その賞を取って盛り上がったとしても、２、３年後には続いていないのが現状である。チャレンジしたものに対してのアフターフォローや、そもそもチャレンジしたことに対して笑わない文化ができたらいい。それが稼げるまちに繋がり、文化的豊かさのあるまちになる。

[賑わい]

○　リモートワークというキーワードを掘り下げたが、リモートワークを推進することで余暇が増えていく。余暇を楽しめる場所や商業的な施設を誘致していくことで、賑わいも増していくのではないか。

○　イベントに若者も来ていると思うが、来ているだけで参加はしていない、プロセスとして入っていくことが少ないのではないか。イベントを作っていくところから若者が参加できるまちづくり、という形ができたら、より良くなるのではないか。

○　イベントの内容としては、地域の特産物をPRするイベントなど、学生や若い人達にも入ってもらい、日立を知ってもらいながらPRするイベントをやってはどうか。

○　大きなイベントはあるが、小さなイベントとして、個々のものをPRしていくといいのではないか。

○　イベント自体は多数あるものの、単発でお店が出て終わりということが多い。イベントに参加することで自分のやりたいこと、できることが分かり、その中で色々な企業とつながることでネットワークができ、将来自分がやりたい職業や仕事が分かり、就職につながるようなイベントづくりができたらもっと活性化するのではないか。

○　全体を通しての感想として、ワークショップはとても楽しかった。皆が発言したいことを発言し、自分も発言できた。職場でもそうだが、言いたいことを言えることが一番であり、そこで出てきた意見を行政に届けることが大事で、全てのことにつながると思う。このようなことをどんどんやり、コミュニケーションをつなげていき、この会議を盛り上げていきたい。

【Ｂグループ】の意見

○　色々意見はあったが、主に多様性の話になった。それぞれが抱える問題点や希望が反映されており、その人数分の意見が集まるということが傾向として見えた。

○　仕事、働き方に関して、多様性という論点から、好きな仕事、好きな業種に就きたいといった意見が多かった。

○　少し違う視点で意見を拾うと、産休・育休の際、金銭面が心配にならない程度の稼ぎが欲しいという意見があった。できるかどうかは別だが、一定規模の会社は必ず保育園を持っていれば、子育て世代の女性など、働きに行けない人たちが働きやすくなるのではないか。

○　ネットワークについては、多様性の面からいくと、趣味などのグループができたらいい。少し違った切り口の意見としては、マイナンバーが各機関と連携し、保育園やヘルパー申請など困っている際に必要な情報が引き出せるようにすることで、役所での手続きのハードルが下がるのではないか。

○　住まい関係では、交通渋滞が少なく、自動車に頼らなくても近場で生活できれば暮らしやすくなるのではないか。

○　出会い・結婚については、「子育てしやすい」というキーワードがあげられたが、地域で同じ世代が集まれば、コミュニケーションが取りやすく質問や手助けができるのではないか。

○　日立という都市については、拾いきれないくらい多様な意見があった。

○　「どこ中（学校卒業）？」と言わないまち、その言葉に自然とヒエラルキーを感じてしまう。市外出身者は、「どこ中？」と聞かれても「そうなんだ」で終わるが、日立の方は感じるものがあるのではないか。良し悪しもあるが、そういう所で嫌な感じを持ち、市外に行きたいと思う人もいるのではないか。上か下かではなく、嫌な気持ちを持ったまま大人になっていく人もいるのではないか。

○　若者に対する行政の関わり方については、単純にもっと話を聞いてほしい。窓口で相談した時にちゃんと答えてほしいということが総論としてある。出来る、出来ないはあるが、アドバイスなど、次に繋がるものがないと、相談者は単に断られたと感じてしまうのため、救い上げてくれる行政であってほしい。

○　３つ目の「賑わい」については、ジャンル分けが難しい部分もあったが、同じく多様性の面から、女子大学生が増えれば、自然と街は賑わうのではないか、若者が集まれる場所さえ提供すれば自由に賑わうのではないか。

○　年齢、性別を取り払って交流できれば街が賑わっていくのではないか、賑わいを作るとしたら、個人個人の趣味などを活かせる場所などがあり、多様性を受け止められる場所があるといいのではないか。

○　場所やイベントがあること自体を知らない、広報で伝えられる限界もあるが、あっても知らないということが多い。場所やイベントがあることを伝え、知ってもらうことが重要である。

○　イベントについては、スポーツやウォークラリーのイベント、ビアガーデン、屋台のイベント、知らない人と出会う、または知らない人ばかりだと参加しづらいので、知り合いの多い小規模なグループのイベントもあるといいのではないか。

○　イベントをやれば人が集まるというのではなく、若い人が明らかに興味を持つもの、イベントの内容自体に興味を持ってもらえるものを実施していくということが重要である。

○　このチームは自分ごとのアイデア、意見がたくさん出ていた。女性のライフステージの中でどういうことが自分にはあったのかなど、具体的な話があった。今後は、多様性、色々な人をいかに受け入れるか、どのように接点を作るかが課題になると思う。

【副委員長講評】

今回、何を言ってもいい時間だったと感じた。当初はポジショントークになったり、周りを気にした発言となったりするのではないか、これでまちづくりの議論ができるのかと思ったが、年齢や肩書関係なく議論できたと思う。こういったことを続けていくことが良い意見を行政に上げていくきっかけになると感じた。

【委員長講評】

皆さんの意見が勉強になった。これだけ熱心にアイデアを出してくれたのだから、出し損にならないようにしたい。意見を出して良かった、で終わってしまい次の日立市の未来につながっていかないのが一番やってはいけないこと。皆さんが出した意見が反映されたまちづくりを日立市がしっかりやっていけると、皆さんが積極的に関わる動機づけになると思う。ここにいる職員の方は分かってくださると思うが、これをどうやって外に出していくかはよろしくお願いしたい。

４　事務連絡

(1)　次回の日程等について

次回は 12 月 17 日（木）午前 10 時から日立シビックセンターで開催

(2)　個別ワークについて

「若者がかがやく環境を作るための基本方針」「若者がかがやく環境づくりの施策」について、12 月２日（水）までに事務局へ提出する。

５　閉　　会

以　上